

# (第76回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について



NO. 2-6	事業名 : 超高压水素インフラ本格普及技術研究開発事業 (終了時評価 / プロジェクト評価) スマートコミュニティ・エネルギーシステム部																												
事業期間 : 2018年度～2023年度の6年間		費用総額 : 費用総額は158.9億円																											
委員構成、ポートフォリオ	委員名																												
<p>2025年の水素ステーションの自立化、2030年以降の水素ステーション事業自立化に向け、水素ステーション（固定式オフサイトステーション・300Nm<sup>3</sup>/h）のコスト2025年以降水素ステーションの整備費を2.0億円以下まで低減、運営費を現行の1/2以下まで低減することをアウトカム目標として、研究開発項目として①国内規制適正化に関わる技術開発、②水素ステーションのコスト低減等に関連する技術開発、③国際展開、国際標準化等に関する研究開発を実施する委員構成は、水素ステーション技術や燃料電池自動車、関係する規制や国際標準化の知見を有する方を中心に選定、また、中間評価の委員を多く選定し、評価の一貫性が保てるよう配慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分科会長は、中間評価時の前分科会長が技術推進委員長になられていたため、専門性（燃料電池、モビリティ）と2004年にNEDOマネジメントに従事していたことで新しく選定。</li> <li>専門分野では、①国内規制、②水素ステーションのコスト削減、③国際標準化に関する評価</li> <li>水素ステーションを設置、運営するユーザー企業視点からの評価</li> <li>事業検討に必要な経済性、規制、社会的受容性からの評価</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">NEDO委員歴</th> </tr> <tr> <th>前身事業</th> <th>事前評価</th> <th>中間評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>池谷 知彦 分科会長 一般財団法人 電力中央研究所 企画部グループ 特任役員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>飯山 明裕 分科会長代理 山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター 水素・燃料電池技術支援室 特任教授 センター長 兼 室長</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>尾方 成信 委員 大阪大学 大学院基礎工学研究科 機能創成専 機能デザイン領域 教授</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>櫻井 輝浩 委員 燃料電池実用化推進協議会 企画部 部長</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原田 文代 委員 株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>丸田 昭輝 委員 株式会社テクノバ 研究部 研究第3グループ 上級首席研究員</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>三浦 真一 委員 株式会社神戸製鋼所 新事業推進本部技術部 兼務 総務CSR 部営業企画Gr 兼務 事業開発部 シニアプロフェッショナル</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		NEDO委員歴			前身事業	事前評価	中間評価	池谷 知彦 分科会長 一般財団法人 電力中央研究所 企画部グループ 特任役員			飯山 明裕 分科会長代理 山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター 水素・燃料電池技術支援室 特任教授 センター長 兼 室長		○	尾方 成信 委員 大阪大学 大学院基礎工学研究科 機能創成専 機能デザイン領域 教授		○	櫻井 輝浩 委員 燃料電池実用化推進協議会 企画部 部長		○	原田 文代 委員 株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員		○	丸田 昭輝 委員 株式会社テクノバ 研究部 研究第3グループ 上級首席研究員		○	三浦 真一 委員 株式会社神戸製鋼所 新事業推進本部技術部 兼務 総務CSR 部営業企画Gr 兼務 事業開発部 シニアプロフェッショナル		
NEDO委員歴																													
前身事業	事前評価	中間評価																											
池谷 知彦 分科会長 一般財団法人 電力中央研究所 企画部グループ 特任役員																													
飯山 明裕 分科会長代理 山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター 水素・燃料電池技術支援室 特任教授 センター長 兼 室長		○																											
尾方 成信 委員 大阪大学 大学院基礎工学研究科 機能創成専 機能デザイン領域 教授		○																											
櫻井 輝浩 委員 燃料電池実用化推進協議会 企画部 部長		○																											
原田 文代 委員 株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員		○																											
丸田 昭輝 委員 株式会社テクノバ 研究部 研究第3グループ 上級首席研究員		○																											
三浦 真一 委員 株式会社神戸製鋼所 新事業推進本部技術部 兼務 総務CSR 部営業企画Gr 兼務 事業開発部 シニアプロフェッショナル																													
評価コメント																													
<p style="text-align: center;">肯定的意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水素ステーション関連の標準化推進においては、日本がISO/TC197水素ステーション関連の議長を務めるなど、本事業において、データに基づいた妥当な標準案の提案と議論をリードしてきたことで、世界各国からも高く評価され、大きな成果があったといえる。</li> <li>低コスト化を目指した材料・評価手法の開発、運用時の保安監督者の削減や、無人運転に向けた遠隔監視など多くの成果については、早期の実用化も見込まれると評価する。</li> <li>新たな動きに対応してHDV向けの新プロトコルに対応した水素燃料計量システム技術と充填技術の開発に向けた取り組みや、水素大量輸送のためのパイプラインの安全性評価とコスト分析などの取り組みは、水素社会実現に向けた課題への対応として特筆に値する。</li> <li>検討委員会や規制・制度の改訂WGなどを設定して、いち早く実用化に向けて推進したことはNEDOの強みを活かしたマネジメントであった。</li> <li>事業者にとっては、毎年の成果報告会が大きなチェックポイントとなっており、個別事業内でも、委員会方式がとられるなど、進捗管理と外部チェックが働くようになっていた。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">今後への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水素ステーションの整備費や運営費については、アウトカム達成の見込みが立っていない。後継事業では、目標に至るためにどの項目を重点的に進めるべきか、実施すべき課題を抽出して進めていただくことを期待する。</li> <li>事業者に対しても低コスト化に向けた目標などを明確に示すことや、外部環境の変化に対応しどのような仕様の設備でどのように普及・低コスト化を目指すか、さらには、普及にあわせどのように実運用結果を吸い上げ、改良開発していくかというようなシナリオの策定と取り組み体制の構築が期待される。</li> <li>情報発信などの成果の普及方策については、引き続ききめ細かに最新の各国政策動向、世界の主要プレーヤーの技術開発の進展を把握しながら我が国の強みを活かした、国際協調と戦略分野での国際競争のバランスを取った対応を期待する。</li> <li>日本の国際標準化の活動を高いレベルで維持、発展できるように、国際標準化活動の主体となる人材を継続して育成していくことが重要である。</li> </ul>																												